

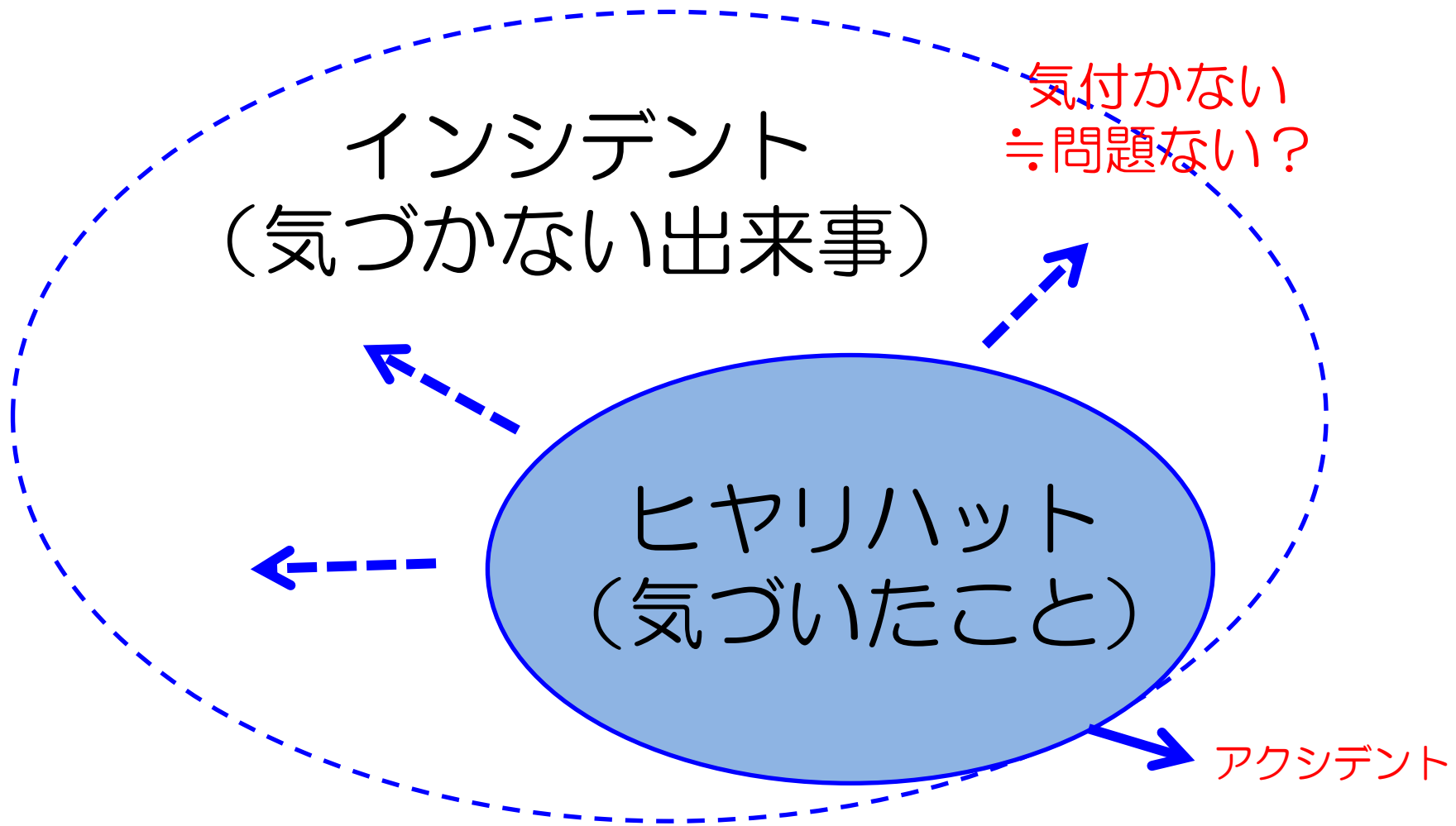
危険物・毒劇物取扱安全対策研修会

(化学薬品を取り扱う人のためのヒヤリハット事例)

令和2年1月15日(水) 1300-1430
広島県立総合技術研究所
畜産技術センター

講師：県立広島大学 生命環境学部
准教授 青柳 充

ヒヤリハットとインシデント



ヒヤリハットを記録し共有することは、インシデントへの意識を上げること
→シンプルに事故の確率が低下する（後から見て、未然に防いでいる）

ヒヤリ・ハットの共有の重要性

- 1件の重大事故はチームの大きなダメージ（既知）
- 1件のニアミスは重大事故の一步という再認識
- 何も起こらないことに人は慣れます
- その慣れ以降，危険水準が下がります
- たいしたことはない、がトリガー（引き金）です
- 個人の経験は言葉にしないとシェアできません

☆H-H報告は「重大事故回避」という『大きな成果』
→高く評価し，表彰するくらいに位置付ける

スマホネタ (他人事ではありません)

薬品が付着した指で・・・「画面」「ボタン」「背面」
「スマホケース」「スマホケースに入れていたクレカ」
「画面に触れた子供の指」
「イヤホン」



LINEの・・・「音で」「バイブで」
「反射的にスマホに接触」,
「とろろとしてスマホ投げる」
「とろろとして肘で顔面を打つ」
「とろろとしてこぼす」
「廊下に出ようとして衝突」

付着した・・・「酸で薬傷」「アルカリで薬傷」
「発がん性物質で・・・」「一張羅に穴」
「ある種の化合物でしみ」「異臭」
「ある種の化合物で白い斑点」「スマホ破損」